

敬うて一切往生人等に白さく。弘誓一乘海は無碍・無辺・最勝・深妙・不可説・不可称・不可思議の至徳を成就したまえり。何を以ての故に。誓願不思議なるが故に。〔教行信証』行巻〕

凡そ誓願について、真実の行信あり、亦方便の行信あり。その真実の行願は、諸仏称名の願なり。その真

実の信願は、至心信樂の願なり。これすなわち選択本の行信なり。その機は則ち、一切善惡大小凡愚なり。往生は則ち、難思議往生なり。仏土は則ち、報仏報土なり。これすなわち誓願不可思議、一実真如海なり。大無量壽經の宗致、他力真宗の正意なり。〔教行信証』行巻)

求むる心と信ずる心との約束

本當の吾々の宗教的生活、言ひ換へれば念仏といふものは何ういふものであるかと言へば、念仏といふものはつまり求むる心であつて、同時に招かれて居るといふ事を信ずる心を含んだものである。求むる心に於て招きたまふ仏を念ひ、招きたまふ所の仏を念ふ事に於て更に求むる心を生ずるのであります。信ずる心の現はれだからして求むる心がなくなるといふものでない。なぜならば、信ずる心と求むる心とはちやんと約束されてゐるのであるからして、信ずる心ができて了へばもう求むる心がなくなつたといふ様な訳のものでないと思ふのであります。信ずる心ができれば求むる心がなくなる様なものは、もう信心でないと思ふのであります。それはもう固定的な思想である。固定的な思想でなくて、それが信心である限りは、信ずる故に求むる、求むる故に信ずるといふさういふ様な意味に於て、求むる心と信ずる心といふものは、ちやんと約束されて居るのであります。

(金子大栄著『観無量壽經講話』より)